求めの政治学

言葉・這い舞う島

李 静 和

岩波書店

目次

それはフケのせいなのよ　1

においを伝える言葉、そして言葉なき人びと（対話者　鵜飼　哲）　7

求めの政治学――東アジアの近代と現在をめぐって（対話者　鵜飼　哲）　45

難民・船・タンパから見つめる世界（聞き手　岡本　厚）　101

影の言葉を求めて……――いまだ幽冥の場所から　135

求めの政治学

2004年12月3日　第1刷発行

著　者　李静和（リ ジョンファ）

発行者　山口昭男

発行所　株式会社 岩波書店
〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
電　話　案内 03-5210-4000
http://www.iwanami.co.jp/

印刷・法令印刷　カバー・半七印刷　製本・牧製本

© Lee Chong-Hwa 2004
ISBN 4-00-025296-8　　Printed in Japan

Ⓡ〈日本複写権センター委託出版物〉本書の無断複写は，著作権法上での例外を除き，禁じられています．本書からの複写は，日本複写権センター(03-3401-2382)の許諾を得て下さい．

벗에게

The Scurf... If There Ever Was a Reason

translated by Kyoo E.Lee

That moment, the word dies.
Not that time stops,
nor that meaning expires,
as if that could revive a breath,
as if that could smell a life,
that's not it; no, no trace at all.
S C U R F.

"So this scurf, I just wanted to
rub it off."
The father every neighbour is scared of,
a mystery to me the child—why a-puh-ji[1],
I asked the mother, one day,
how this happened, them getting together.
Well, just because...of

[1] "father" in Korean

this thing stuck in the scruff of the neck, in
a scruffy short-haired chap in an army-surplus jumper,
this white sticky stuff lodged in the back of this man, then a stranger.
No light in the life of the bush fighter,
no light in the solitary confinement of the long-term prisoner,
turned the whole of his body, day after day, into dead skin,
a map of dandruff, white like a graveyard.
Never to be shown to the others,
Every night since the first, this has been going on,

D a n d r u f f,
Rough,
C o m b i t o f f,

This white sticky stuff, these coagulated flakes,
Falling, flying, down and down;
the father sitting motionless, blank-faced, like an infant,
his entire being given up, ta-da[2], to the mother,
devoid of the power to control his own body, his back.
Every, endless, night, the mother cannot help crying.

[2] "just like that" or "as it is" in Japanese

This scurfy stuff, stuck in here.
This scurfy stuff, standing fast.
Like a cherry blossom on an island, moistened by the sea breeze,
like a magnolia blossom impregnated with water,
these white leaves won't leave.
Here is the place where illusion ceases to exist.
No illusion, none whatsoever, can enter here.
Concreteness, this alone remains:
the material remains, neither moving an inch nor carrying a smell,
the white stuff.

A living thing,
is that a death adhering to the living?
a moment of encounter
falling, suddenly into time, like white snow from the heavens?

訳者の Kyoo E.Lee 氏はロンドン大学で学び，現在米国で英文学を講じているコリアン・アメリカンである．本書の著者李静和氏のロンドン滞在中に知己となり，「それはフケのせいなのよ」の英訳に取り組んだ．日本語を知らない Lee 氏のために李氏がまず韓国語に訳し，それをもとに英訳が作られ，両者の検討に付された．（編集部）

あなたく　島　147

Viewing the World from the *Tampa* 6
Tessa Morris-Suzuki

The Scurf . . . If There Ever Was a Reason 3
translated by Kyoo E. Lee

それはフケのせいなのよ

李 静和　政治社会学者

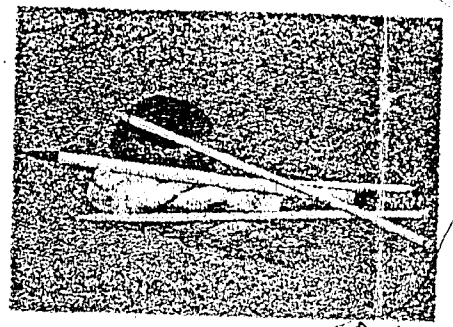
ことばが死ぬ瞬間がある。それは時間の停止とはちがう。意味の死でもない。

そしてまた生き返ってくるとき、なぜかことばは匂いが落ちている。匂いがない。だから痕跡もない。フケ。

「それはフケのせいなのよ。それを払いたかったの」

村の人が怖がる父のことが子供の私には不思議に思え、なぜアポジと一緒になったのと、ある日たずねると、母はぽつんと言った。ぼろの野戦ジャンパー、刈り上げた髪、その父の首の後ろにくっついた白い塊。

光のない山の生活。その後続いた長い独房の時間。年月は父の体に、まるで皮膜のような白いフケの墓地を作ってしまった。人に見せまいと、新婚の初夜から毎晩のように続いた



しまったという。

かかつての教養の没落に別の面もあったことを指摘できない。教養層の売れ行き速を尻目に市場で評価をものに『別冊宝島』（宝島シリーズがあるが、その内情緒的・断片的とはいえな「わかりたいあなたのため」と冠されたように、それは教養がアカデミズムの中思したのはリアリティーをたせいだとみなし、社会人誌でも理解できるような知表現を企図していた。

かしそうした知識欲は、アミズムとジャーナリズムので「オタク化」を帰結しリアルではあっても仲間内か通じない知識をもたらしである。それゆえに財団や助成の力も借りて「顔の見関係をつくって、職業的知が互いに認知しあい、評価成のできる場」を構築しよいう山崎氏の構想も、正当あろう。振り返ると、筆者は本欄の重心をそこに置いてきた。

公論生む文化育てよ

さらに、論争において「作法」が失われているということがある。最近の論壇では、発言の場の公共性に敬意を払うならば起こりえなさそうな醜悪な言い合いがしばしば勃発している。そうした論争が、ケンカもしくはショーとしていたずらに消費されているのである。思想上の党派が「オタク」的に集結し相互に抗争しているのだともいえる。

相手との信頼をふまえて論争することを通じて「公論」を生み出す文化の成熟が、いま求められているのだと思う。

（社会経済学者）

◇

松原隆一郎氏の担当は今回で終わり、四月からは哲学者の鷲田清一・大阪大学教授が担当します。

朝日新聞　1999.3月31日（火）

朝日賞

第三回手塚治虫文化賞

（朝日新聞社主催）の候補作は、次の五作に決まった。受賞作は五月に発表される。

浦沢直樹氏『MONSTER』（小学館）▽さそうあきら氏『神童』（双葉社）▽三浦建太郎氏『ベルセルク』（白泉社）▽藤子・F・不二雄氏『ドラコンヘッド』（講談社）▽岡崎京子氏『UNTITLED』（角川書店）

翻訳

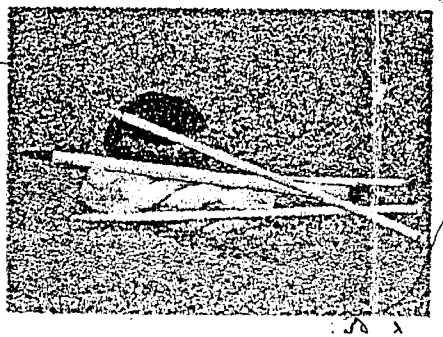
翻訳家の表彰

トラノ氏らに

日本における翻訳家の優秀

その間に、[illegible]ていく。切ないものである。その[illegible]に対する感謝[illegible]

それはフケのせいなのよ



李 静和　政治社会学者

ことばが死ぬ瞬間がある。それは時間の停止とはちがう。意味の死でもない。

そしてまた生き返ってくるとき、なぜかことばは匂いが落ちている。匂いがない。だから痕跡もない。フケ。

「それはフケのせいなのよ。それを払いたかったの」

村の人が怖がる父のことが子供の私には不思議に思え、なぜアポジと一緒になったのと、ある日たずねると、母はぽつんと言った。ぼろの野戦ジャンパー、刈り上げた髪、その父の首の後ろにくっついた白い塊。

光のない山の生活。その後続いた長い独房の時間。年月は父の体に、まるで皮膜のような白いフケの墓地を作ってしまった。人に見せまいと、新婚の初夜から毎晩のように続いた

会語

フケ（解かし。

解かしても解かしても落ちてくる

あのしつこい白い塊

ろ子供のように母に身をまかせ

ただ呆然と眺めるとんで

ら自分の体に無力になっている父の後ろ

母は毎晩泣き続けるしかなかった。

さとびりついていたフケの塊。

落ちようもないフケの塊。

島の海風に濡れた桜の花のように

水をはらんだ木綿のように

しつこくとびりついている白い薬っぱ

それは幻想の不在の場所。

いっさいの幻想が排除されたそこには

具体性　それだけが残る。

くのたくらない　匂いがない

物体　白い塊

それは生き物に

あらかじめくっついている死なの

出会い頭に

いずれ天から落ちてくる白い

会場

▽棚谷勝遠作展　4月3日まで（東京・銀座）。10時～18時。キャリー青[illegible]。平面。▽クリスチャン・ロッスマン展　3日まで（東京・[illegible]）。写真。▽平岡潤スケッチ展・[illegible]